

住民による川の管理

～流域住民による自然環境保全の取り組み～

三ツ又沼ビオトープでは、荒川の貴重な環境を守るあらかわ市民環境サポーターや荒川の自然を取り戻す荒川ハンノキプロジェクトが行われています。



あらかわ市民環境サポーターによる三ツ又沼ビオトープの解説



「荒川ハンノキプロジェクト」で連携している中学校で行われた話し合い

あらかわ市民環境サポーター（三ツ又沼）

あらかわ市民環境サポーター（三ツ又沼）は、荒川の貴重な自然である三ツ又沼ビオトープを大切に思い、ともに守り育てる人を増やすために、荒川上流河川事務所が認定・登録するボランティア制度で、パートナーシップによる三ツ又沼ビオトープの保全・管理と環境教育をサポートします。

基本的には、計画に基づいた保管理作業の進行、参加者への説明・指導や、その補助、視察・見学者の対応、日常的に見回り、環境・利用状況をサポーター事務所に報告します。

あらかわ市民環境サポーター （三ツ又沼）認定証



まなえ まなえ No. 上記の者を、荒川の貴重な自然である三ツ又沼ビオトープと共に守り育てるサポート活動を行う「あらかわ市民環境サポーター（三ツ又沼）」に認定します。

年 月 認定
（任期2年・更新可）

国土交通省荒川上流河川事務所長 印

認定証

▶ 荒川流域では『河川協力団体』として、8団体が指定

河川協力団体制度とは、自発的に河川の維持、河川環境の保全等に関する活動を行うNPO等の民間団体を支援するものです。また、河川協力団体としての活動を適正かつ確実に行うことができると認められる法人等が対象となり、河川管理者に対して申請を行います。

申請を受けた河川管理者は、適正な審査のうえ、河川協力団体として指定します。荒川では2018（平成30）年時点で8団体が指定されています。



▶ 荒川水辺サポーター — 荒川下流自然地理管理アダプト制度 —

荒川の下流部は、年間1,500万人が訪れる憩いの場であるとともに、ヨシ原や干潟などもあり、動植物の貴重な生息環境となっています。

しかし、外来種の繁茂や漂着ゴミの堆積などの問題にも直面しています。

そこで、荒川下流部の自然地理を、一般公募の活動団体の方と、地元自治体と、荒川下流河川事務所の3者が連携して維持管理活動を行っていくアダプト制度を進めています。

現在自然地理は「千住桜木自然地理」、「小松川自然地理」、「本木自然地理」の3カ所あり、随時参加団体の募集をしています。



活動団体（千住桜木自然地理）

コラム 荒川ハンノキプロジェクト

三ツ又沼ビオトープに近い小中学校の児童生徒が協力して行う、荒川の自然を取り戻すプロジェクトです。具体的には、各地で減っているハンノキ林を取り戻し、そこにいる生きものたちが元気にいつまでも暮らしてもらえるよう、三ツ又沼ビオトープ内でハンノキの種をとって持ち帰り、1年間、児童生徒に育ててもらいます。1年後、育てたハンノキの苗を三ツ又沼ビオトープに植え直します。

平成27年度野生生物保護功労者表彰（主催：環境省・公益財団法人日本鳥類保護連盟）において、以前より荒川ハンノキプロジェクトを継続している出丸小学校に「林野庁長官感謝状」が贈られました。



ハンノキプロジェクトにて林野庁長官感謝状が贈られた（川島町立 出丸小学校）

アクセス

三ツ又沼ビオトープ

交通：JR高崎線「上尾駅」下車、東武バス「平方」行き、「川越駅」行き、「リハビリセンター」行き、「指扇駅」行き、「平方」下車、徒歩約25分、JR埼京線「川越駅」下車、東武バス「上尾西口」行き、「平方」行き、「入間大橋」下車、徒歩約20分（専用駐車場あり）

住所：関平橋上流の河川敷（埼玉県上尾市、川越市、川島町の境）

千住桜木自然地理

交通：日暮里舎人ライナー「足立小台駅」下車、徒歩約15分
JR常磐線、東京メトロ千代田線・日比谷線、つくばエクスプレス、東京スカイツリーライン「北千住駅」下車、徒歩約30分

住所：東京都足立区千住桜木地先



三ツ又沼ビオトープ



千住桜木自然地理